

《加齢及び疾病により福祉・介護施設を退所し病院への入院となるケース》

利用者（被後見人）平均年齢53.2歳（高齢86歳～31歳）であり、施設（障害者入所支援施設・介護高齢者施設）、グループホームでの生活を続けることが難しくなっている方が見られます。嚥下機能が低下し、誤嚥性肺炎を繰り返し、胃瘻造設手術を施行し、入所施設で引き続き生活を送る方も居られますが、医療的対応を必要とする利用者は、福祉施設では対応できない事になります。入院中の病院から施設に戻れず、他の病院に転院するケースが増えていく事が考えられます。

例えば、グループホーム入居者 A氏の入院に関して、身体の諸症状（機能・疾病）により選択されます。（基本 現入居・入所施設に復帰とします）

- ① グループホーム 入院 グループホーム
- ② グループホーム 入院 入所施設
- ③ グループホーム 入院 介護保険施設（特養、老健）
- ④ グループホーム 入院 療養型施設（病院）
- ⑤ グループホーム 入院 一般病院（緩和ケア、ホスピス他）

（グループホーム、施設入所者②～、特養入所者③～の選択肢となります）

今後、上記の形により生活の場が変わっていく事もあり、その都度、家族・関係者が集まり協議していく事になります。

以上、これまでに実績の無い案件に関わるが多くなっています。